

「働くママ」が当たり前時代に!?

2020年までに、「専業主婦」という仕事はなくなると言われています。2002年時点では子どもがいる世帯のうち妻が働いている割合は40%を切っていましたが、現在は約60%。半分以上が働くママです。20年ほど前には「母親が家で待っていない子なんて、ろくな者に育つわけない」と考える人も。それがいまでは、「みんなが働く時代、子どもは社会で育てる時代」とはいえ、まだ過渡期。育児休業を取りにくい企業は多いし、親世代には「家で子どもと夫を待つ母」の幻想はまだまだ根強く残っています。また、子どもがいるために時短勤務をしたり急に休んだりしなければならず、思い切り仕事ができないストレスを抱えることもあるでしょう。仕事と育児を両立する環境はまだまだ整っているとは言えません。

でも、「仕事のストレスは子どもと一緒に過ごすことで解消。子どもとのストレスは、仕事で解消」とプラスに捉えているママもいます。高度成長期のように、夫に右肩上げりの給与は期待できない現代、母親が全員働いているという時代は、もうすぐそこまで来ています。共働き夫婦のみなさん、もしくはこれから働こうとしているママたちはすでに、最先端の未来を走っているのです。

著書
「働くお母さんの子どもを
伸ばす育て方」

働くお母さんの多くが悩む、育児や家事、夫や親との付き合い方、勉強について…、解決するための提案や応援メッセージが記されている。読むと元気に、明日への力になる。



「働くママ」が当たり前時代に!?

2020年までに、「専業主婦」という仕事はなくなると言われています。2002年時点では子どもがいる世帯のうち妻が働いている割合は40%を切っていましたが、現在は約60%。半分以上が働くママです。20年ほど前には「母親が家で待っていない子なんて、ろくな者に育つわけない」と考える人も。それがいまでは、「みんなが働く時代、子どもは社会で育てる時代」とはいえ、まだ過渡期。育児休業を取りにくい企業は多いし、親世代には「家で子どもと夫を待つ母」の幻想はまだまだ根強く残っています。また、子どもがいるために時短勤務をしたり急に休んだりしなければならず、思い切り仕事ができないストレスを抱えることもあるでしょう。仕事と育児を両立する環境はまだまだ整っているとは言えません。

悩み1
時間が足りない

時間に追われて子どもに「早くしてー」と言いきりてしまい、それに気が病むママは多いです。でも、社会に出た時のために、早く行動することを教えるのはとても大切です。ただ、すぐにママが望むスピードにならないことだけは理解

悩み2
一緒にいてあげたい

働くママは、「子どもにさみしい思いをさせている」と感じ、子どもが問題行動を起こすと「私が働いているから」と考えてしまいがち。でも、それは日本ならではの「良妻賢母幻想」に過ぎません。子どもは「放つておかれる時間で育つ」もの。毎日、短くても濃く愛情を伝えていれば大丈夫。一緒にいら

悩み3
私生活に制約が
出てしまう

学校行事への参加や習い事の送迎など、できないことがあつて当然。LINEなどの文明の利器や保育サービスである程度は解決できます。できないことを嘆くより、働くメリットに目を向けて。ママが不在だと子どもに自立心が芽生えますし、人生の大変さや喜びを、仕事を頑張る自分の背中で伝えることもできます。

悩み4
食事や手作り品に
こだわりたい

子どものために、と思う気持ちは尊いのです。

この方に伺いました

花まる学習会 代表
高濱正伸さん

1993年に「国語」「思考力」「野外体験」を主軸にすえた学習塾「花まる学習会」を設立。テレビや雑誌など各種メディアでも活躍する熱血先生。

「住みなれた街で働きたい」
そんなアナタを待ってます!

お仕事情報

仕事に家事・育児との両立…
働くママの悩み、解決します!

働くママは毎日大忙し。育児も家事も中途半端になっている気がして、子どもに後ろめたさを感じてしまうママも多いのでは。ところが、花まる学習会の高濱正伸さんは、「仕事をする中で、子どもに悪いと思う必要は全くありません」と話します。多くのママが抱える悩みに、解決の一手を示してくれました。

しておきましょう。「子どもと向き合う時間が取れない」と悩む方もいますが、過ごす時間が短くてもしっかりと向き合えていれば大丈夫。1日5分、ぎゅつと抱きしめてあげましょう。身体がくつくと安心でき、愛情はちゃんと伝わります。

れないことで無駄に自分を責めないでほしいと思います。

私生活に制約が出てしまう

学校行事への参加や習い事の送迎など、できないことがあつて当然。LINEなどの文明の利器や保育サービスである程度は解決できます。できないことを嘆くより、働くメリットに目を向けて。ママが不在だと子どもに自立心が芽生えますし、人生の大変さや喜びを、仕事を頑張る自分の背中で伝えることもできます。

も、子どもは外で買ったご飯でも、一緒に笑顔で会話しながら食べるのが好き。他のママと比較して「私はできていない」と思い悩む必要はありません。時短グッズや家事サービスなどを上手に利用して、無理なく笑顔で続けられる範囲を目指せばいいのです。

おおらかに
誇りを持って

誇りを持って生き生きと仕事をする姿を子どもに見せることが、最終的には子どもたちの将来のためにもなります。仕事は、より良い子育てをするための安心カード。家が散らかつていようが、忘れ物が多かるうが、生きていけばOK。多少のことば笑い飛ばすくらいのおおらかさでありたいものです。